

事業名	地域適応型新技術等実証事業費		調査番号	94
細事業名	新技術実証圃設置事業費	財務コード	341101	
担当部課室	農政 部 農業技術 課 普及教育・資金 担当 (内線)	5355		

I 事業の概要

実施期間	始期 H7 年度 ~ 終期 年度	
実施主体	県(直営)	
目的	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして
	JAの生産部会など県内農業者	試験研究機関等で開発された新しい技術や新品種等を普及
結果、何に結びつけるのか		
県内農業の生産性の向上		
内容	<p>「実証展示ほ」*1を設置し、農業の活性化を図る。 各農務事務所、総合農業技術センター、果樹試験場、畜産酪農技術センターの職員が普及指導活動を行う。</p> <p><普及指導活動の流れ> ① 新技術や新品種を普及させるため、地域農家は場内等に「実証展示ほ」*1を設置する。 ② 農業者や農業関係機関を対象に、普及を促すための実証展示ほを活用した現地検討会や成果検討会を開催する。 また、新技術を普及させるためマニュアルを作成し、農業者等に活用してもらうことで、生産性の向上につなげる。 *1：「実証展示ほ」とは、省力化や高収益化など新しい栽培技術を、地域の先進的な農家は場で実証し、講習会を開催して、その栽培過程を農家に見せ、効果的に地域農家に普及する普及活動手法のこと。</p>	

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
活動指標	実証課題実施数	目標	21	21	21	21	21	21
		実績(見込)	21	21	21	21	21	21
		達成率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		達成区分	b	b	b	b	b	b
成果指標	試験研究成果の地域実証課題実施数	目標	18	18	19	17	17	13
		実績(見込)	18	18	19	17	17	13
		達成率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		達成区分	b	b	b	b	b	b
決算(予算) 単位:千円		867	924	810	907	798	1,010	1,010

III 事業の評価(平成29年度の業績評価)

活動指標	b	評価	試験場の開発した技術と行政からの要望による現地実証とも、21課題の取組を実施した。
成果指標	b		ピラミッドアジサイなど新品種の地域導入、シャインマスカットの省力生産技術など、試験場で開発された新たな技術などを地域実情に合わせて実証することで、円滑に新技術の普及ができた。

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

IV 見直しの必要性(平成31年度に向けた改善等の考え方)

関係与の必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い <input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる <input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input checked="" type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他 ()
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能 <input type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	実証展示をするなかで、地域に適した技術への改良が行え、最適な技術を農業者に普及することができる。
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある <input type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他 ()
その他	説明	
見直しの必要性	有	実証ほの成果は、実証する地域の農業者の経営安定に有用な技術であるから、現地講習会の機会にはなるべく対象者を広くしていくことが必要である。

V 見直しの方向(平成31年度当初予算等での対応状況)

実施方法等の変更	説明	実証課題は21課題を維持していくが、実証ほ場で行われる講習会の際には、JA広報などの媒体を用い、地域の新規就農者等の参加者などをより多く集めることとし、有用な普及成果を拡大していく。
----------	----	---

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。